

中小企業ぎふ

2016

2・3

Vol.647

2016年3月25日発行

～ 立ちあがろう中小企業、日本のために ～



クローズアップ企業

2～3

岐阜長良川
温泉旅館協同組合
組合員

「株式会社長良川観光ホテル石金」

- 会員組合紹介 4～5
- 中央会の活動 6～8
- 組合等の活動 9
- Pick Up情報 10～11
- 2月の景況レポート 12～13
- 職員レポート 14
- インフォメーション 15
- ものづくり・商業・サービス革新
補助金のご案内 16



“組合のニーズに応えるパートナー・中央会”

岐阜県中小企業団体中央会

岐阜市数田南5丁目14番53号 ふれあい福寿会館9階
TEL 058 - 277-1100(代) FAX 058-273-3930
URL <http://www.chuokai-gifu.or.jp>

クローズアップ企業

株式会社長良川観光ホテル石金

【岐阜長良川温泉旅館協同組合・組合員】

《企業概要》 岐阜市長良112

株式会社長良川観光ホテル石金 代表取締役 永瀬 章

URL : <http://www.ishikin.co.jp/>



岐阜市の中央に位置する長良川温泉旅館街は、1,300年の歴史がある宮内庁式部職の位をもった鶴匠によって行われる格調高い長良川の鶴飼をはじめ、織田信長の居城として天下に名を馳せた岐阜城など、観光や歴史資源が豊富にある風光明媚な地にあります。

清流長良川の畔に建つ7つの旅館・ホテルで組織された当組合は、宿泊客の受注をはじめ、業務用品の共同購買、各種イベントの企画や共同宣伝事業などに取り組んでいます。また、発足10年を迎えた「若女将会」ではミニ散策ツアーの企画やSNSを使った情報発信など、女性ならではの感性を生かして長良川温泉街を盛り上げています。

今回は、美しい景色と伝統的な会席料理が自慢の宿で、省エネにも積極的に取り組む「株式会社長良川観光ホテル石金」を訪問し、長良川温泉泊覧会の実行委員長も務める永瀬章社長にお話をうかがってきました。

◎御社のこれまでの沿革について ご紹介ください。

☞ 永瀬社長

当旅館は、およそ80年前に「石金旅館」としてスタートしております。現在の形になったのは30年程昔であり、その歴史は今も脈々と伝わり、長良川観光ホテル石金に息づいています。



永瀬章社長

当旅館では、客室数がそれほど多くないこともあって、昔から宴会中心の営業を続けてきました。宴会場は大小合わせて9会場を完備しており、様々な団体やグループの宴会を伝統的な会席料理でもてなしてきました。また、当時としては画期的だった「飲み放題プラン」を提供するなど、お客様や幹事の皆様から評価をしていただきました。しかし、時代と共に大規模な宴会が減り、飲食店での宴会が増えていく中で、宿泊に対するテコ入れを迫られ、インターネットを利用した予約サイトを運営するエージェントに活路を求めました。今でも覚えています。最初のネット経由の予約は沖縄県のお客様でした。ネットが持つ情報発信力には大変驚きましたが、今では宿泊のほとんどがネットからの予約で、日本各地から大勢のお客様に当旅館をご利用いただいています。

◎御社の特徴や方針を 教えてください。

☞ 永瀬社長

当旅館では5年程前に新たに露天風呂を設置し、その脇に誰もが無料で足湯が楽しめる場所を作りました。長良川温泉の泉質は単純鉄冷鉱泉で茶褐色の湯が特徴。足湯は鶴飼船を連想させる造りで、観光客をはじめ地元の人も利用しています。

当旅館の規模は長良川温泉旅館街の中でも小さい部類に入るため、一度に大勢のお客様を接客するというよりはご家族や小グループのお客様に接する機会が多く、そのため“お声かけ”を大切にしています。私の想いは『家庭的な旅館』というコンセプトで、宿泊から宴会までご利用いただいた全てのお客様にほっこりしていただく、なんか温かくて居心地がいいなと思ってもらえる旅館づくりを目指しています。ありきたりかもしれませんが“おもてなし”の気持ちを常に持つようにと全スタッフに伝えていますし、当旅館の特徴であるとも思っています。

◎組合に期待することは何ですか？

☞ 永瀬社長

平成26年に「長良川中流域における岐阜の文化的景観」が国の重要文化的景観に選定され、昨年は長良川の鶴飼が国の重要無形民俗文化財の指定、又、「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町岐阜が日本遺産に指定、さらには「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定されました。観光経済新聞社が主催する「にっぽんの温泉100選」に2011年からランクインし、長良川温泉の注目度は上がっています。

当組合は最大で18軒の旅館・ホテルで形成していました。しかし、現在は7軒となり少し寂しくなりましたが、若女将会によるおもてなし活動、長良川おんぱくへの参画、各施設での薬膳料理や信長おもてなし御膳の提供など、各施設が足並みを揃えて次々と温泉街を盛り上げる企画を打ち出しています。組合の役割は、こうした取り組みを全国に情報発信するお手伝いだと思います。

また、今後は長良川プロムナードの活用方法について、行政も交えて検討していく必要があります。宿泊客が散策するには絶好のロケーションですが、まだまだ改善の余地があります。さらに長良川温泉の将来を考えると新しい温泉の掘削についても考えていく時期に来ていると思います。組合が牽引役となって新しい試みや課題解決に取り組むことを期待しています。



和風スタイルの宴会場

◎中央会の支援事業を利用したことによる効果を教えてください。

☞ 永瀬社長

中央会の支援事業は取引先の損保会社から紹介していただきました。旅館業は日常生活から解放された時間を過ごしていただく場所を提供するのが仕事ですが、一方で宿泊客の命を預かるという大きな責任もあります。そこで、同事業を利用してBCPの策定に取り組みました。BCPとは事業継続計画と呼ばれるものですが、大規模災害が発生した際に、製造業は被災後に早く業務を復旧することで事業継続の可能性が高くなりますが、旅館業は営業できる状態に戻ってもインフラ等が復旧しなければ宿泊客をお迎えできないため、どちらかというと被災して困っている地域の人達や遠方から来たボランティアの方々にお部屋を提供していくという考え方が前提となります。今回の支援事業により、改めて安心・安全を提供することの重要性について再確認することが出来ました。

【組合概要】

岐阜長良川温泉旅館協同組合

理事長 伊藤善男 (株)十八楼・代表取締役)

〒502-0817 岐阜市長良福光2610番地4

URL: <http://www.nagaragawa.org/>

組合員数：7社

主な事業：共同受注、共同購買、共同宣伝

◎経営をしていく上で大切にしていることを教えてください。

☞ 永瀬社長

私は、お越しいただいたお客様にどうしたら喜んでもらえるかをいつも考えています。真心を持って接客し、自慢の料理は旬や食べ時を逃さないように提供するため、温かい料理は温かいうちに、冷たい料理は器まで冷やして配膳するなど、目配りと気配り、そして心配りを大切にしています。

先日、テレビでも放送していただきましたが、省エネにも力を入れています。旅館における電力消費の多くは空調と照明が占めています。宴会が進む夜の時間帯にピークを迎えますが、ここでお客様の様子や会場の温度などを仲居が把握し、各部署の従業員と情報共有することで無駄な電力消費を減らしています。消費電力の少ないLED照明や省エネ設備の導入には資金も必要なため、こうした地道な努力を積み重ねていくことも経営においては大切なことだと思っています。



無料の鶺鴒船の足湯

◎最後に御社の今後の展望、抱負をお聞かせください。

☞ 永瀬社長

昨今、「クールジャパン」という言葉もあるように日本は世界中から注目されています。ビザの要件緩和や円安効果もあって外国人訪日客は2013年に1千万人を突破し、昨年は2千万人をうかがう勢いで推移しました。こうした影響もあって当温泉旅館街にも海外からのお客様が増えています。今後は従業員教育も含めて外国人宿泊客への対応も進めていく必要がありますが、伝統ある日本文化を料理やお風呂、和室でのおもてなしを通して伝えていくことも我々の使命だと思っています。

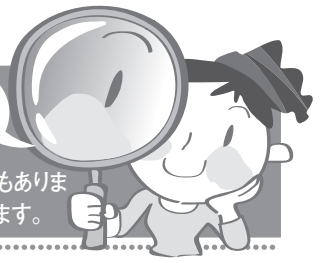
旅行業界は、団体旅行から個人旅行の比重が高くなり、加えて宴会も畳に座る着座式から着席を希望されるケースが増えました。当社も時代の流れを柔軟に受け止めながら、純和風スタイルの旅館として“長良川温泉で身も心もぼかぼか”をモットーに、今後も癒しの空間を提供していきたいと思っています。



組合 紹介

こんな活動をしています！

本会は、多種多様な業種・業態の組合等が会員となっており、これが本会の特徴でもあります。各組合がその特徴を活かし日々活動を行っていますので、皆様の仲間を紹介します。



岐阜土木協同組合

- 理事長 永井 康貴
- 組合員数 50人
- 設立年月 昭和56年5月
- 住所 岐阜市杉山町2番地
- TEL 058-265-0411
- URL <http://www.gidoko.jp/>
(一社)岐阜土木工業会HP)

◆組合の歴史・活動



永井康貴理事長

当組合は、岐阜市、羽島市、各務原市、山県市、瑞穂市、本巣市、羽島郡、本巣郡を地区とした建設業者で組織する事業協同組合です。組合の設立は昭和56年5月で、初代理事長には苅谷二郎氏が就任し、組合員109名でスタートしました。県内には建設業者で組織された協同組合が各地区にあり、その多くが建設業協会と連動しています。よって、当組合も設立時より岐阜土木工業会館内に事務所を構え、表裏一体の関係にある(一社)岐阜土木工業会と連携しながら組合員の経済的地位の向上に努めてきました。

組合事業の中心は「資材の共同購買事業」です。メインは生コンクリートで、ピーク時は30万㎡を超える取り扱いがありました。近年はその量も大きく減少しましたが、建設業を営む上で生コンは重要な資材であり、良質な生コンを安定して購入できるように組合としても努力する必要があります。また、生コン業界の皆様とは対等な関係で折衝等を進め、共存共栄していくことが地域にとっても望ましいのではないかと考えています。

その他にも、コンクリートブロックや下水道用資材など組合員が必要とする資材を購入してきましたが、現在は販売チャネルの多様化に伴い少なくなりました。また、昭和57年から18年間に亘って自動車ローン関係の事務を取り扱ったほか、昭和62年からは共済制度を開始し、組合員及びその従業員等の福利厚生をサポートしています。

そして、岐阜土木工業会では、労働安全衛生研修会といった教育情報事業のほか、行政機関との災害協定の締結や道路清掃などのボランティア等の社会貢献活動にも取り組むなど、社会の公益、土木建設業界の発展のため

に様々な活動を行っています。

当業界には「双葉会」という青年部組織があります。次の時代の業界を託せる人材形成の場として、また時にはライバル、時には同志となる仲間づくりの場として各種事業に取り組んでいます。県中小企業青年中央会にも加入しており、過去には同会の事業を利用して他業種の青年部とも親睦を深めました。青年部員も異業種との交流には積極的で、貴重な経験の場となっています。

◆組合が目指す方向性とは

今年5月には設立35年を迎え、業界を取り巻く環境は激変したと言っても過言ではありません。設立当時から右肩上がりに増えてきた公共工事に関する予算は、平成4年の84兆円をピークに減少へと転換し、これに比例するように組合員も減少を続け、現在はスタート時の半数を下回る50社となりました。また、当業界は労働人口減少に伴う慢性的な人材不足に陥っており、加えて事業者は法整備等に伴い様々な部分で負担が増え、収益率の悪化が進み、苦境に立たされています。しかし、建設業は住宅や社会資本整備の直接の担い手であり、重要産業の一つです。その時代や地域に必要な社会基盤、社会資本というものをしっかりと造り、適切な維持管理によって現在そして未来の社会を支えていく存在であります。

昨年7月に6代目の理事長に就任された永井康貴理事長は、「当業界は大規模災害への対応という観点からも重要な役割を担っており、県建設業協会では建設業広域BCMの認定を受けた。地域の建設業者が生き残るためにも公共工事予算の安定確保について要望活動を続けていく必要がある。また、当業界は消費者の方々と接する機会が少なく誤解されている部分も多い。積極的に情報発信を行い、社会貢献活動等を通じて地域の方々と触れ合う機会を増やし透明性の高い業界にしていかなければいけない。今後も人材確保に苦勞すると思うが、地道な活動が業界のイメージを変え、若者が魅力に感じてもらえる業界になるのではないかと。次の時代へ引き継いでいけるよう業界一丸となって頑張っていきたい。」と今後の抱負を話しました。



労働安全衛生研修会

高田陶磁器工業協同組合

- 理事長 加藤 誠次
- 組合員数 37人
- 設立年月 昭和22年5月
- 住 所 岐阜県多治見市小名田町東谷20の1
- T E L 0572-22-2028
- U R L <http://takatayaki.jimdo.com/>

◆組合の歴史・活動



加藤誠次理事長

当組合の組織化は明治32年に遡ります。高田地区の製陶業者26人で陶磁器同業組合を結成して販売協定等を行っていました。大正15年には土岐津陶磁器工業組合に加入・合併して高田支所となり、戦後の昭和22年に商工協同組合法に伴い高田陶磁器工業組合、さらに昭和24年に施行された中小企業等協同組合法により、翌25年に現在の高田陶磁器工業協同組合の名称と変更し、組合員50人により新たな活動をスタートしました。

組合員が作る陶器は、「高田焼」「たかた」と称し、多治見市高田地区で採れた「青い土」を原料として出来ています。地元ではこれを「青土」（あおと）と呼んでおり、青土を主体とした「せつ器土」と称しています。その特性は、きめが細かく粘りがあり、綿密に焼き固まることから強度もあり、その上、焼きあがると吸水性がほとんどなくなるというもので、その特徴を活かし「高田徳利」を作りあげました。こうしたことから青土は大切に利用され、昭和40年代まで外部への持ち出しが禁止されていたほどです。そのため、組合の主事業も設立以来、鉾山開発会社に委託した高田鉾山から産出した青土主体のせつ器土を製土工場で生産し、組合員に対して安定供給を図ってきました。なお、この数年は約1,000トン強を生産しています。

高田焼は美濃焼産地の多くが磁器の生産へ移行していく中でも、せつ器土粘土を使った製品を作り続けています。平成8年には活路開拓実現化事業を活用し「塩焼窯」を製作し、地元の土を活かした製品づくりを行いました。組合では毎年1月に開催される多治見地区陶磁器工業組合の新春見本市に組合員が出展するための事業に取り組み、組合員の新品開発に対する意欲向上に努めています。そして組合員は、暮らしに密着した土味を生かした素朴で味わいのある特産品を製造しています。

高田焼は美濃焼産地の多くが磁器の生産へ移行していく中でも、せつ器土粘土を使った製品を作り続けています。平成8年には活路開拓実現化事業を活用し「塩焼窯」を製作し、地元の土を活かした製品づくりを行いました。組合では毎年1月に開催される多治見地区陶磁器工業組合の新春見本市に組合員が出展するための事業に取り組み、組合員の新品開発に対する意欲向上に努めています。そして組合員は、暮らしに密着した土味を生かした素朴で味わいのある特産品を製造しています。

◆組合が目指す方向性とは

高田地区は、高田焼の陶祖である加藤与左衛門影直が1616年にこの地に移り住み、開窯からちょうど400年を迎えました。これを記念して当組合では『高田焼400年のあゆみ』を発刊するとともに、発表講演会や昔の窯場の写真展、高田で焼かれた陶器の展示会を3月12日にとうしん学びの丘「エール」講義棟で開催しました。

また、3月22日から8月26日まで出土品を中心に展示した「高田陶祖400年記念～高田焼のあゆみ」を多治見市文化財保護センターで開催するほか、「美濃民芸陶器のまつり」を4月3日に多治見市高田町・共栄公園において行う予定で、高田焼の歴史紹介や記念誌の販売などを通じて、多くの方々に高田焼の文化や歴史を伝えることで、さらなる高田焼の発展を目指したいと考えています。

加藤理事長は「歴史と文化のある高田焼の特徴を出す青土の特性を活かして生活に適した、使いやすく温かみのある『ものづくり』をずっと伝え継いできた。今後も高田・小名田の焼き物は、他の産地では創ることのできない、使い手の立場に立った『ハタラクウツワ』として、皆さんの周りで活躍していくと思う。今でも暮らしに密着した焼き物を多く生産しているが、土の風味を活かした味わい豊かな特産品を今後も生み出していくとともに、高田焼を500年、600年と後世に伝えるためにも組合青年部を中心に人材育成に努めていきたい」と今後の組合の役割について話されました。



高田焼 400年のあゆみ

「スーパーマーケット・トレードショー2016」に出展

中央会は、2月10日から12日まで東京ビッグサイトで開催された「第50回スーパーマーケット・トレードショー2016」に出展し、全国から訪れたバイヤー等に対し県産品のPRを行った。

同展示会は、スーパーマーケットを中心とする流通業界に最新情報を発信するBtoB専門展示会として注目されており、今回も3日間でおよそ9万人が訪れた。本会として2年ぶりの出展となった今回、会員組合並びにその傘下組合員5社が出展し、自慢の商品や新たに開発した商品等を展示して販路開拓に取り組んだ。

なお、出展者の概要と出展した感想は次のとおり。

武芸川町特産品開発企業組合

(代表理事 杉山ミサ子 関市武芸川町谷口1223)

イチオシ出展商品 『つるむらさきうどん』

ねばねば野菜「つるむらさき」を粉末にして小麦粉に練り込みました。コシのある「つるん」とした、なめらかな舌ざわりの美味しいうどん

《出展者の声》

試食した人からは「とても美味しい」、「コシがあつてつるつるしてのど越しが良い」といった驚きの声がかれた。また、バイヤーからは、核家族や一人暮らしの方への売り方を検討して欲しい等の意見を聞く事ができ、参考になった。



小林生麺株式会社

(代表取締役 小林俊夫 岐阜市白山町2-23-5)(岐阜県製麺協同組合 組合員)

イチオシ出展商品 『ウルトラグルテンフリーヌードル』

カロリー・糖質50%以上オフ、食物繊維も豊富で高たんぱく、低糖質の麺

《出展者の声》

新規で興味を持たれた来訪者が多く「グルテンフリー」の認知度が高まり大変効果があった。今後の商談につながりそうなバイヤーと名刺交換ができ、今後はフォローアップを頑張りたいと考えている。



有限会社麺の清水屋

(代表取締役 清水富康 飛騨市神岡町殿877)(岐阜県製麺協同組合 組合員)

イチオシ出展商品 『飛騨高山ラーメン』

飛騨高山醸造元「角一」の醤油を使用したコクのあるあっさり醤油味のラーメン

《出展者の声》

多くのバイヤーに試食をしていただき、一様に味の評価が高く反応が良かった。また、「パッケージの調理写真を工夫した方がよい」といった意見や、「海外向けに賞味期限を長くした商品を作って欲しい」などの要望があったほか、今後の商談につながりそうな案件も多くあり、販路拡大が期待できる。



有限会社渡辺酒造店

(代表取締役 渡邊久憲 飛騨市古川町巻之町7-7)(岐阜県酒造協同組合連合会 傘下組合員)

イチオシ出展商品 『飛騨のどぶ』

酵母のにごり成分がピン底に沈殿しないのが本物の証。酵母の発酵パワーで美容と健康によいにごり酒

《出展者の声》

出展した商品の中で「飛騨のどぶ(にごり酒)」を試飲される方が一番多かった。この商品については、会期中に関東地方のスーパーとの商談がまとまり、既に一部を出荷している。また、味の評価だけではなくお酒のラベルデザインや商品の陳列の仕方への評価もあり、大変有意義な出展となった。



天領酒造株式会社

(代表取締役 上野田隆平 下呂市萩原町萩原1289-1)(岐阜県酒造協同組合連合会 傘下組合員)

イチオシ出展商品 『造り酒屋の甘酒のもと』

アルコール0%。砂糖、糖類、食塩、保存料は一切使用せず、疲れた時に最適な栄養ドリンク

《出展者の声》

甘酒の反応がとても良く、認知度がかなり広まった感じがする。また、スパークリング酒についても飲食店から良い感触があった。初出展だったが来訪者も多く、具体的な商談も出来たので今後に期待が持てる。今回出展は収穫が多く、非常に良かったと思っている。



経営力パワーアップセミナーを開催

中央会は、会員組合等を対象とした「経営力パワーアップセミナー」を2月18日にホテルグランヴェール岐山で開催した。

中京大学経済学部の内田俊宏客員教授を講師に招き、「中小企業が生きる道～地域経済の現状と展望から見る、中小企業者の活路～」をテーマに、東京オリンピックの開催やリニア開業に向けて期待される成長分野・産業と中小企業との関わりや生き残り策について指南を受けた。内田教授は、ニュース番組などでコメンテーターを務めるほか、行政機関の各種委員など公職にも就かれており、当日は組合役職員ら約100名が出席した。

内田教授は、中部地域並びに県経済の現状と展望について分析し、「昨年の実質賃金は0.9%減で、物価上昇にペースに追いつけていない。中長期的な日本経済は、消費税引き上げによる負担増をいかに軽減するかがポイントとなる。また、中部にとって『昇龍道』プロジェクトは重要な成長戦略である。自然や食事、買物、温泉といった観光資源が豊富にあり、アジア向けにPRを強化する必要がある。一方で、高速道路の環状化は企業誘致や観光振興に不可欠であり、東海環状道西回りの開通がもたらす影響は大きい」と解説した。また、「中小企業白書では、地方の中小企業の成功事例として“マーケット・イン”から“プロダクト・アウト”への転換を紹介している。地元大学とのタイアップにより商品開発をしているケースも出てきており、人材確保に苦勞する中小企業が多い中で企業は若者のアイデアを聞き、学生は中小企業に興味を持ち、またベンチャー意識を高められるといった相乗効果も生まれる」とアドバイスするなど、内容の濃い90分となった。



内田客員教授の解説に耳を傾ける参加者

平成27年度情報連絡員会議を開催

中央会は、2月18日にホテルグランヴェール岐山で「情報連絡員会議」を開催した。会議には本会が委嘱をしている情報連絡員30名が出席し、各業界の動向や今後の見通しなどが報告された。

出席者からは、業界の現況について、円安の効果により織物や陶磁器、刃物などの地場産業の生産が向上した一方、円安に伴う原材料価格の高騰により収益状況が悪化し、組合員間でも景況感に差が出ている。今後の見通しについては、不透明要素は多いものの、国内市場の縮小により海外に目を向けていく旨の報告があった。

また、県商工労働部商工政策課の田口課長補佐兼政策企画係長より「岐阜県中小企業支援施策について」、東海財務局岐阜財務事務所理財課の岩瀬主任調査官より「金融行政方針のポイントについて」、(株)商工中金岐阜支店の楠田次長より「商工中金独自の総合支援策について」それぞれ説明が行われた。



情報連絡員が現況を説明

「職場トラブルを防ぐ人事・労務管理セミナー」を開催

中央会は、小規模事業者を対象に「職場トラブルを防ぐ人事・労務管理セミナー」を2月12日にふれあい福寿会館で開催した。セミナーには定員を上回る申し込みがあり、職場における労働問題に対する関心の高さがうかがえた。

現在、様々な“職場トラブル”が社会問題となっており、未然に防止することで職場環境の改善、従業員のモチベーションの向上、人材の定着化に繋がり、企業にとって大きな効果が得られることから、人事・労務管理の在り方について考えるのが本講座の狙いで、特定社会保険労務士の岡本真仁氏が講師を務め、①職場トラブルを起こさないための労働法の基本知識、②職場ルールと管理者の対応方法、③安心して働ける職場環境への対応について解説した。

岡本社労士は、「自社にどういったリスクがあるのかを把握し、リスク管理レベルをどこまで引き上げるのかを検討してからリスク回避の対策（手間とお金）を講じること」と参加者にアドバイスした。



岡本社労士がトラブル防止策を解説

「組合事務局代表者懇談会」を開催

中央会は、組合活動の充実を図るため、「組合事務局代表者懇談会」を3月9日にふれあい福寿会館レセプションルームで開催し、組合役員や事務局長ら20名が参加した。

今年度は、県中小企業組合士協会との共催で開催し、組織や事業運営上の課題、また新たな取り組みに向けた提案や意見などを持ち寄り、組合活性化に向けた懇談会を実施。組合運営の専門家である中小企業組合士が進行役となり、参加者から事前に提出された調査票を使って業種別の小グループでそれぞれ意見交換を行った。

参加者からは「他組合の課題とそれに対する取り組みが参考になった」、「このような取り組みは回を重ねていくことでより深い意見交換が出来るため、継続して実施して欲しい」といった意見が出された。また、県組合士協会の市原会長（川崎岐阜（協）・参与）は「組合士は組合運営の経験と専門知識を備えており、今回の進行役を担ったが、その役割は十分に果たせたと思う」と感想を話し、『1組合1組合士』が実現できるように参加者に資格取得の周知を図った。



各グループが活発に意見交換

組合青年部強化研修会を開催

中央会は、組合青年部の育成強化を図るため、1月29日にホテルパークで「組合青年部強化研修会」を開催し、組合青年部員など52人が参加した。今年度は、東京山喜（株）の中村健一代表取締役社長が「失敗して初めてわかる自社の価値 ～老舗呉服問屋 温故知新のビジネスモデル～」をテーマに講演した。

東京山喜（株）は、大正13年に呉服問屋として創業。着物市場のピークは40年前で約2兆円の規模があったが、現在は約3千億円まで縮小している。3代目に就任した中村社長は、日本人女性の9割は着物が好きで着たいと思っているが、高価であるため実際は購入に至らず、着てもいないということを知り、平成11年に消費者から着物を買取り、安価に販売するリサイクルショップ『たんす屋』をオープンさせ、現在は全国に約130店舗を展開している。

中村社長は、成功要因として「時代に合った消費者のニーズを把握し、消費者の価値観に対応したサービスや商品を提供する事が重要」と説明し、最後に「ジュエリー製品の企画・製造や着物以外のOEM製品の製造・販売などに挑戦し数々の失敗をしてきたが、失敗は成功へのプロセスだと思っている。まずは今の業を極めること。そして、極めて終わるのではなく思い切ってスクラップする。さらに、自分はこの世界で一番になるという大きな志を持つことが重要である」と聴講者に熱く語った。



聴講者に熱く語る中村社長

東濃で青年部強化支援事業（青中講習会）を開催

中央会と県青年中央会は共催により、若手経営者や後継者等の経営能力の向上と企業活性化に向けた組合・組合青年部の活用を目的に、「青年部強化支援事業（青中講習会）」を3月14日にセラトピア土岐で開催した。

今年度は、（株）エスト・コミュニケーションズの代表取締役を務める弓削徹氏を講師に招き、「モノづくり企業のカオづくり経営～中小企業が“作って売る”ための戦略的ブランディング～」をテーマに講演し、青年部員など63人が参加した。

弓削社長は、「近年、ヒット商品を生み出す新たなマーケティング手法として、消費者の感性に訴える“感性マーケティング”が注目されているが、これは大企業ならではの手法である。中小企業にふさわしいのは、ニッチな市場に目を向け、消費者の“切実”なニーズ（悩みや課題）に応えるような商品を生み出すこと」と説明し、『切実』をキーワードにしたヒット商品の具体例などを紹介した。また、良いものが必ずしも売れるとは限らない今の時代において、「自社にとって、消費者に伝えるべきウリや強みは何かを見極めようとして、商品デザインやネーミング、企業スローガン、キャッチコピー等を作り出し、自社のカオにして打ち出していく必要がある」と、ブランディングのポイントについても分かりやすく解説した。

参加者からは自社の経営に役立つ講演だったとの感想があるなど、中小企業に求められるものづくり、販促・ブランディングについて改めて考えさせられる時間となった。



弓削社長の説明に聞き入る青年部員等

組合等の活動

可児市内の3組合等が建設業連合会を発足

- 可児市建設業協同組合(細川理事長)、可児市管設備協同組合(市原理事長)、可児造園協同組合(前田理事長)

可児市内にある建設関係の4団体が連携する「可児市建設業連合会」が新たに発足し、1月28日に設立総会と記念祝賀会が市文化創造センターで開かれた。

構成メンバーは、可児市建設業(協)、可児市管設備(協)、可児造園(協)及び可児市建築安全協力会の4団体で、近しい業界が協力することで、情報交流や相互発展を図ることを目的としている。事業計画では、年6回の役員会をはじめ、合同での安全パトロールや市が行う各種訓練への参画などが活動の軸となっており、初代会長には細川吉文理事長が就任した。細川会長は、「地域の建設業発展に寄与するため、可児市内の企業同士が情報共有し、経営環境の改善を目指していく」と抱負を話した。



総会で挨拶する細川会長

可児市環境フェスタに参加

- 可児造園協同組合(前田俊満理事長)

可児市環境フェスタ実行委員会が主催する「第16回可児市環境フェスタ」が2月28日に同市の広見公民館ゆとりピアで開催され、市民団体や事業所、小・中学校等と共に可児造園(協)が参加し、普段の環境への取り組みや成果などを紹介した。

当日は約千人が来場し、会場では、「ストップ地球温暖化!~未来へつなごう みんなで環境まちづくり~」をテーマに多数のイベントが催され、同組合では日頃の造園活動について展示を行ったほか、先着320名に大気環境木(サルスベリ、トサミズキ、ニシキギなど)の無料配布を行った。また、造園・緑化に関する無料相談会も実施し、来場者が専門家に相談する様子が見られた。

同組合の伊藤副理事長は「当組合は街路樹や公園の管理、ボランティア活動を通じて地域貢献を目指している。今回のフェスタをはじめ、環境について考える活動には今後も協力していきたい」と感想を述べた。



大気環境木を無料配布

泉陶磁器工業(協)青年部員が商品カタログを制作

- 泉陶磁器工業協同組合(工藤良治理事長)

泉陶磁器工業(協)青年部の部員4人が立ち上げた新ユニット“1・2・3+ (Plus)”が、美濃焼と自社製品の魅力を国内外にPRするため、独自の商品カタログを制作した。

カタログには部員4社の紹介と各社が製造する食器180点を掲載。料理テーマに合わせてテーブルコーディネートした写真を多用し、単なる商品カタログではなく美濃焼の使い方を提案する要素も加えた。また、和食が世界無形文化遺産に登録されたこともあり、世界を視野に入れたカタログにするため、商品名等に英訳も付けた。昨年12月に3千部が完成し、本年1月から産地問屋を中心に配布。カタログを通じた注文も入りつつあるという。

カタログ制作にあたり中心役を担った(尙)丸義の酒井社長は、「カタログには作り手の思いが詰まった商品を多くの消費者に見て欲しいとの思いを込めている。今後は4社共同でオリジナルの商品開発にも取り組み、次号に掲載できればと考えている。業界は厳しい状況にあるが、こうした取り組みが美濃焼の付加価値を高め、元気になるきっかけになれば」と話した。また、組合の工藤良治理事長は、「部員が自ら行動を起こし活動することは、組合にとっても業界にとっても非常に喜ばしい」と期待を述べた。



今回制作したカタログ

◆組合トピックス◆ 中古車を買うなら、安心・信頼のJU岐阜加盟店で!

岐阜県中古自動車販売商工組合は、消費者に安心と信頼を届けることが出来る県内の中古車販売店で組織化された組合です。

同組合では共同購買事業をはじめ、年2回の中古車ジャンボフェアの開催や組合員向けの講習会、社会貢献事業など様々な活動を行っています。また、組合員が自信をもって勧める厳選車を掲載した中古車検索サイト「ジャウス」の運営も行っており、組合員の販売促進に大きく貢献しています。さらに組合ホームページでは、車のかしこい買い方や手持ち車の売却する際のポイントなどを紹介し、消費者が安心して車選びが出来るよう情報発信に努めています。

中古車は新車と違い一物一価です。ご希望の車種をお探しの際は、組合ホームページ (<http://www.ju-gifu.or.jp/>) をご覧ください。また、組合青年部のFacebookの「いいね!」も併せてお願いします。



組合HPで情報発信

組合及び中小企業・小規模事業者向け 各種施策のご案内

■中小企業活路開拓調査・実現化事業

環境変化等に対応するため、単独では解決困難な諸テーマ（新たな活路開拓・付加価値の創造、既存事業分野の活路上・新陳代謝、取引力の強化、情報化の促進、技術・技能の継承、海外展開戦略、各種リスク対策等）について、**中小企業連携グループが改善・解決を目指すプロジェクト**を支援する事業です。

【支援対象者】

中小企業組合（事業協同組合、商工組合、企業組合等）中心とした中小企業の連携グループ

【補助率】

補助対象経費の10分の6以内

【補助対象となる事業種類等】

- 中小企業組合等活路開拓事業
調査研究／ビジョン作成／試作開発／実証実験／国内・海外展示会出展・開催
- 組合等情報ネットワークシステム等開発事業
実現可能性調査研究／システム開発
- 連合会（全国組合）等研修事業
活路開拓研修、経営革新演習
事業内容等の詳細は、全国中央会HP
(<http://www2.chuokai.or.jp/hotinfo/27katsuro-project.htm>) をご覧ください。

【応募受付期間】

平成28年2月22日（月）～7月19日（火）

なお、第1次締切は、応募期間終了。

第2次締切が平成28年4月25日（月）、第3次締切が6月13日（月）、第4次締切が7月19日（火）、いずれも17時必着です。

※締切ごとに、審査・採択を行い、予算枠に達した時点で終了となります。

【問い合わせ先】

全国中小企業団体中央会 振興部 TEL 03-3523-4905
岐阜県中小企業団体中央会 代表 TEL 058-277-1100

■TPPを活用した中小企業の海外展開を支援

中小企業・小規模事業者海外展開戦略支援事業

中小企業庁 創業・新事業促進課（03-3501-1767）

・新たに海外展開を目指す中小企業を対象に、海外展開計画の策定を支援します。

1件あたり140万円上限（補助率：2/3）

※農商工連携等による海外展開を目指す場合は、上限を200万円とします。

※農商工連携等による海外展開を目指す場合は、上限を200万円とします。

・具体的には、海外現地調査のための渡航費、通訳費などの補助とともに、海外ビジネスに精通した専門家が海外展開計画の実現を支援します。

・また、海外現地に相談窓口を設置（※）。パートナー企業の発掘、法務・税務・労務、拠点設立から移転・撤退までの諸手続きについて、海外現地事情に詳しい専門家が相談対応を行います。

※13ヶ国20ヶ所に中小企業海外展開現地支援プラットフォームを設置

■中小企業の生産性向上を支援

中小企業等の省エネ・生産性革命投資促進事業

資源エネルギー庁 省エネルギー対策課 (03-3501-9726)

- ・設備ごとの省エネ効果等で簡易に申請が行える制度を創設し、高効率な省エネ設備（空調、工業炉、給湯など）への更新を支援します。

補助率：設備取得費用の1/3

■小規模事業者の販路開拓等

小規模事業者支援パッケージ事業（持続化補助金等）

中小企業庁 小規模企業振興課 (03-3501-2036)

- ・小規模事業者^(※)が、商工会・商工会議所と一体となって実施する販路開拓の取組を支援します（持続化補助金）。1件あたり50万円上限（補助率：2/3）

※従業員数が20名以下(商業・サービス業は5名以下)

- ・具体的には、販路開拓用のチラシ作成、商品パッケージ制作、集客力を高めるための設備導入などの費用を補助します。
- ・雇用者の増加や買物弱者対策、海外展開に取り組む場合、1件あたりの上限額が100万円となります。

■税制改正で事業活動を後押し

①新たに取得する機械装置の固定資産税の軽減（新設）

中小企業庁 企画課 (03-3501-1765)
財務課 (03-3501-5803)

新たな機械装置の投資に係る固定資産税の特例

- ・中小企業が生産性を高める機械装置を新たに取得した場合の固定資産税（1.4%）を3年間にわたって1/2に軽減します。
- ・中小企業等経営強化法（仮称）の認定計画に基づき取得する機械装置（新品）が対象となります。

（適用期限：平成30年度末までの投資）

②少額の減価償却資産の取得価格の損金に算入（延長）

中小企業庁 財務課 (03-3501-5803)

中小企業者等の少額減価償却資産の取得価格の損金算入の特例

- ・従業員1,000人以下の中小企業が、30万円未満の減価償却資産を取得した場合、合計額300万円を限度に全額損金算入（即時償却）できます。
- ・例えば、マイナンバー制度への対応のため、パソコンや金庫、ソフトウェアなどを取得した場合にも利用できます。

（適用期限：平成29年度末まで）

③交際費を損金に算入（延長）

中小企業庁 財務課 (03-3501-5803)

中小法人の交際費課税の特例

- ・交際費等の800万円までの損金算入、又は、②接待飲食費の50%までの損金算入を選択適用することができます。

（適用期限：平成29年度末まで）

④外国人旅行者向けの消費税の免税手続（拡充）

中小企業庁 商業課 (03-3501-1929)

地方を訪れる外国人旅行者向け消費税免税制度の拡充

- ・免税の対象となる一般物品の最低購入金額を1万円超から、5千円以上に引き下げます。
- ・商店街区内に所在するショッピングセンターの店舗は、商店街の組合員でなくとも、商店街と免税手続カウンターを共同活用することができます。

（適用期限：なし）



景況レポート

平成28年
2月末調査
(前年同月比)

中小企業団体情報連絡員69名
(うち69名分の集計)の情報連
絡票から

〔I〕2月の特色

- ◆景況感D I 値マイナス28
～悪化傾向が続く～
- ◆前月に比べ、主要な調査項目のD I 値は
すべて改善

〔II〕2月の概況

当月の景気動向を前年同月比の景況感D I 値で見ると、好転2、悪化30で、D I 値はマイナス28となり、前月のD I 値マイナス23に対し、5ポイントの悪化となった。

さらに業種別の景気動向を前年同月比の景況感D I 値で見ると、製造業のD I 値はマイナス30となり、前月比で10ポイントの悪化、非製造業のD I 値はマイナス24となり、前月比で3ポイントの改善となった。

なお、回答のあった69業種のうち、前年同月比で景況感が「好転」と回答した業種は、下呂温泉旅館、高山旅館の2業種(前月比-1業種)。

また、「悪化」と回答した業種は21業種(前月比+2業種)となっている。

主要な調査項目を見ていくと、売上高D I 値はマイナス12で前月比11ポイントの改善、販売価格D I 値はマイナス4で前月比8ポイントの改善、収益状況D I 値はマイナス13で前月比9ポイントの改善、資金繰りD I 値はマイナス5で前月比6ポイントの改善となり、これら主要な調査項目においては改善の結果

となった。

コメントを見ると、製造業では、「収益状況は2月も対前年同月比で微増。新商品の開発を継続中で、市場への投入を急ぎたい。(機械すき和紙)」、「貿易関係の出荷が好調であり、また主要燃料であるガス単価が低廉である影響などで、飲食器メーカーの雰囲気は概して明るい。(陶磁器(工業))」など、プラスの内容が報告された一方で、「2月の出荷量は、前年同月比、前月比ともに大きく減少した(出荷量:前年同月比80.8%、前月比60.7%)。需要の減少により景況が後退している。(碎石生産)」など、マイナスの内容も報告された。

非製造業では、「旧正月等の長期連休による外国人(中国人)観光客が多かった。(高山旅館)」など、インバウンドの増加を伝える内容が報告された一方で、「インバウンドの影響で、値段が高騰し、施設の確保が困難になっている。(旅行業)」というマイナスの内容も報告された。また、「閏年のため、営業日が1日多く、その分入荷量、売上額共に前年同月より増加した。(生花販売)」など、前年同月に比べ営業日が1日多かったことに伴う売上の増加を伝える内容も報告された。

その他、「やや円高になり、海外の原材料調達についてはコスト減につながりメリットが出始めている(家具)」、「原油安を受けて光熱費、輸送コストは減少している点は良い。(メッキ)」など、円高や原油価格の値下がりについてプラスの内容も報告された。

<主な調査項目での動向>

売上高の動向は、前年同月比で増加21、減少33でD I 値はマイナス12となり、前月のマイナス23に対し、11ポイントの改善となった。

売上高が増加した業種は15業種(前月比+1業種)あり、縫製(既製服)、東濃ひのき、機械すき和紙、砂利生産、メッキ、金型、機械・工具販売、青果販売、共同店舗(飛騨)、生花販売、商店街(高山)、下呂温泉旅館、高山旅館、理容・美容業、電気工事である。

売上が減少した業種は23業種(前月比-7業種)あり、特に窯業・土石、建設業の区分で多かった。

販売価格の動向は、前年同月比で上昇11、低下15でD I 値はマイナス4となり、前月のマイナス12に対し、8ポイントの改善となった。

販売価格が上昇した業種は8業種(前月比+2業種)あり、牛乳、食肉(国産)、家具、特殊紙、青果販売、水産物商業、生花販売、下呂温泉旅館である。

販売価格が低下した業種は11業種(前月比-3業種)となった。

収益状況の動向は、前年同月比で好転15、悪化28でD I 値はマイナス13となり、前月のマイナス22に対し、9ポイントの改善となった。

収益状況が好転した業種は11業種(前月比+3業種)あり、縫製(既製服)、家具、機械すき和紙、プラスチック、メッキ、機械・工具販売、青果販売、生花販売、商店街(高山)、下呂温泉旅館、高山旅館である。

収益状況が悪化した業種は20業種(前月比-3業種)となった。

資金繰りの動向は、前年同月比で好転5、悪化10でD I 値はマイナス5となり、前月のマイナス11に対し、6ポイントの改善となった。

資金繰りが好転した業種は4業種(前月比+1業種)あり、可児工業団地、生花販売、下呂温泉旅館、高山旅館である。

資金繰りが悪化した業種は7業種(前月比-4業種)となった。



県内中小企業

(2月末調査)

主要業種の景気動向

製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調 査 項 目	売 上 高	販 売 価 格	収 益 状 況	資 金 繰 り	雇 用 人 員	景 況 感
食 料 品	牛 乳		▲	○	△	△	△	△
	食 肉 (国 産)		△	○	▲	△	△	▲
	菓 子		▲	△	▲	△	▲	▲
	米 菓		△	△	△	△	○	△
	製 麵		△	△	△	△	△	△
織 維 ・ 同 製 品	撚 糸		△	△	△	△	△	△
	ニ ッ ト 工 業		△	▲	△	△	△	△
	毛 織 物		▲	△	▲	△	△	△
	合 成 織 維 織 物		△	△	△	△	△	△
	メ ン ス ア パ レ ル		△	△	△	△	△	△
	婦 人 ・ 子 供 服		▲	▲	▲	▲	△	▲
	縫 製 (既 製 服)		○	△	○	△	△	▲
木 材 ・ 木 製 品	製 材		△	△	△	△	△	△
	銘 木		▲	△	△	△	△	△
	家 具		△	○	○	△	△	△
	東 濃 ひ の き		○	△	△	△	△	△
紙 紙 加 工 品	機 械 す き 和 紙		○	△	○	△	△	△
	特 殊 紙		△	○	△	△	○	△
	紙 加 工 品		△	△	△	△	△	△
印 刷	印 刷		▲	△	▲	▲	△	▲
化 学 ゴ ム	プ ラ ス チ ッ ク		△	▲	○	△	△	△
窯 業 ・ 土 石	陶 磁 器 (工 業)		△	△	△	△	△	△
	タ イ ル		▲	△	▲	△	△	▲
	窯 業 原 料		▲	△	▲	△	△	△
	石 灰		▲	▲	▲	△	△	▲
	生 コ ン ク リ ー ト		▲	△	△	△	△	△
	砂 利 生 産		○	△	△	△	△	△
	碎 石 生 産		▲	△	△	△	△	▲
鉄 鋼 ・ 金 属	鑄 物		▲	△	△	△	△	▲
	刃 物 等 金 属 製 品 (輸 出)		△	△	△	△	△	△
	刃 物 等 金 属 製 品 (内 需)		△	△	△	△	△	△
	メ ッ キ		○	△	○	△	○	△
一 般 機 械	県 金 属 工 業 団 地		△	△	△	△	△	△
	可 児 工 業 団 地		▲	▲	▲	○	▲	▲
	金 型		○	△	△	△	△	△
輸 送 用 機 器	輸 送 用 機 器		△	△	▲	△	○	▲

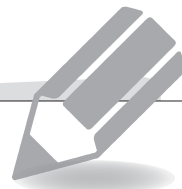
非 製 造 業		前年同月比						
区 分	業 種	調 査 項 目	売 上 高	販 売 価 格	収 益 状 況	資 金 繰 り	雇 用 人 員	景 況 感
卸 売 業	電 設 資 材 卸		△	△	△	△	△	▲
	陶 磁 器 産 地 卸		△	△	△	△	△	△
	機 械 ・ 工 具 販 売		○	△	○	△	△	△
小 売 業	青 果 販 売		○	○	○	△	△	△
	水 産 物 商 業		▲	○	▲	△	△	▲
	家 電 機 器 販 売		△	△	△	△	△	△
	メ ガ ネ 販 売		△	△	▲	▲	▲	▲
	中 古 自 動 車 販 売		△	▲	△	△	▲	△
	石 油 製 品 販 売		▲	▲	△	△	△	△
	共 同 店 舗 (飛 騨)		○	△	△	△	△	△
	生 花 販 売		○	○	○	○	▲	△
商 店 街	岐 阜 市 商 店 街		▲	▲	▲	▲	▲	▲
	大 垣 市 商 店 街		△	△	△	△	△	△
	高 山 市 商 店 街		○	△	○	△	△	△
サ ー ビ ス 業	自 動 車 車 体 整 備		△	△	△	△	△	▲
	長 良 川 畔 旅 館		△	△	△	△	△	△
	下 呂 温 泉 旅 館		○	○	○	○	△	○
	高 山 旅 館		○	△	○	○	△	○
	ク リ ー ニ ン グ		△	△	△	△	△	△
	広 告 美 術		△	▲	▲	△	△	△
	旅 行 業		▲	△	▲	▲	△	▲
	理 容 ・ 美 容 業		○	△	△	△	△	△
	建 設 業	土 木 (岐 阜 地 区)		▲	▲	▲	△	△
土 木 (飛 騨 地 区)		▲	△	▲	▲	△	▲	
建 築 設 計		▲	△	▲	▲	△	▲	
鉄 構 造 物		▲	▲	△	△	△	△	
電 気 工 事		○	△	△	△	△	△	
管 設 備 工 事		△	△	△	△	△	△	
建 築 板 金		△	△	△	△	△	△	
室 内 装 飾		△	△	△	△	△	△	
木 造 建 築		▲	△	▲	△	△	△	
運 輸 業	貨 物 運 送 (県 域)		▲	△	△	△	△	▲
	軽 運 送		△	△	▲	△	△	△

凡 例

○ : [増加]、[上昇]、[好転]

△ : [不変]

▲ : [減少]、[下降]、[悪化]



中央会職員が日々の仕事や生活を行う中で感じていることなどを綴る「職員レポート」。第12回は中央会事務局の“癒し系男子”中林係長に筆を執っていただきました。



「少年野球との出会い」

国際・情報課 係長 中林 伸介

「がんばれ〜!」「あきらめるな〜!」「いいぞ〜!」この3年間、この言葉を何回使ったでしょうか。

私には2人の子どもがおります。現在、上の子は小学6年生の男の子。4年生の時から小学校の野球少年団に入団しました。息子が入団した日に、一日だけお手伝いをしようということで私も練習場に行ったら、監督が子ども達を集めて、「今日からコーチに就任した中林コーチです。一言どうぞ!」と私を紹介。「…えっ!」初めは状況が飲み込めず…でも、ここで「コーチではありません」という空気ではなく…「よろしくお願いします。」それから、少年野球との生活がスタートしました。

私は、どちらかという運動はやるより見る方が好きなタイプ。野球も小さい頃に遊びで草野球をやっていましたが、人から教わった事はありません。そのため、当初は守備練習の時、自分が守りに入った時も選手が投げたボールが速すぎて捕れなかったり、四十肩のせいかな?塁間の距離が投げられなかったりと、悪戦苦闘の日々が続きました。しかし、今となっては良い思い出です。

野球の練習は真夏の炎天下でも行われます。私は色白のタイプですが、3年前から夏限定で顔が尋常ではないほど、真っ黒になります。そのため、久しぶりに会う友人からは「体が悪いの?」と心配されたり、会社の人からは「また一段と黒くなったね〜」とか「また今週末日焼けサロンに行ったのですか?」とからかわれたりしていました。

この3年間で私が一番記憶に残っている試合は、6年生の夏に開催された岐阜市の大会です。予選を勝ち抜いて迎えた8月下旬。その日は35度を超えるような暑さの中で、準決勝、決勝戦の2試合を戦うという小学生にとってはかなりハードな日程でしたが、子ども達は随所にハツラツとしたプレーを見せてくれて、見事に優勝という栄冠を勝ち取ることができました。あの時のチームの一体感はこれまで見たことのないもので、とても感動しましたし、優勝が決まった瞬間の子ども達の笑顔は、今でも私の脳裏に焼きついています。

このように、子ども達も色々な経験をすることができましたし、野球の技術以外にも挨拶の仕方や礼儀、感謝する心など、多くの事を学んだと思います。3年間、一緒になって同じ目標に向かって頑張ってきたチームメイトは一生の友人となるでしょう。これからも少年野球を通して学んだことを十分活かして、立派に成長して欲しいと願っています。

最初の頃は練習に行くのに足が重くなりがちだった私が、この3年間コーチを続けてこられたのは、子ども達の成長を間近で見ることができると、また子ども達と一緒に喜んで、感動したり、悔しがったり、時には涙ぐんだりして同じ時間、同じ空気を共有することができたからだと思います。また、他の学校との練習試合も年間30試合ほど組まれました。私は全ての試合には参加できませんでしたが、他校の監督やコーチ、野球少年団員の方など多くの人と出会い、交流することができたのは、私にとって大きな財産となりました。私は色々な意味で子ども達と共に成長させてもらい、大変貴重な経験をすることができたと思っています。

このように3年間、少年野球のコーチをやってきた中で私にとって最大の収穫は、6年生の時の優勝がそうであったように、チーム(組織)において一つの大きな目標を達成するためには、個々の相対的なレベルアップはもちろん、「強い団結力」と「円滑な連携」そして、「挑戦する勇氣」が不可欠であると身を持って体験できたことだと思います。

私は中央会で働き始めて18年目になりますが、指導課、労働課、総務課など様々な仕事を経験してきました。そして、業務を通じて多くの組合役員の方々や事務局の皆さんと出会いました。組合の方に「いつもありがとう。これからも頼りにしているよ。」と感謝の言葉をいただいた時はやっぱりこの仕事をして良かったなと思います。私は、まだまだ未熟者で組合運営のご支援をする際に至らない部分もあるかと思いますが、さらに頼りにしていただけるように、少年野球を通して得た貴重な経験を活かして、日々精進していきたいと思いますので、どうかよろしくお願い致します。

この3月で3年間のコーチ生活は終わりましたが、4月からは新たな〇〇生活を見つけて「プレーボール!」したいと思います。



中林コーチが熱血指導

中央会「理事会」・「通常総会」のご案内

中央会では、『平成28年度第1回理事会』並びに『第61回通常総会』を下記の日程で予定しております。関係各位には、日程調整と併せてご出席をお願いいたします。

*理事会 4月22日(金) 10:30~ ふれあい福寿会館 3階「302大会議室」

*通常総会 6月 9日(木) 15:30~ 岐阜都ホテル2階「ボールルーム」

決算関係書類等の作成にあたって

多数の組合が年度末を迎える時期となりました。組合は通常総会の終了後2週間以内に「決算関係書類」を、変更のあった日から2週間以内に「役員変更届書」を所管行政庁に提出しなければなりません。また、総会後には代表理事の変更登記等が発生する場合があります。

本会ホームページ「組合事務マニュアル」で法に則した様式例を掲載しておりますので、ご確認いただき、各書類を作成いただきますようよろしくお願い致します。

なお、県所管の組合につきましては、中央会を経由(郵送又は持参)して所管行政庁に提出できますので、本会にご提出をお願い致します。

平成28年度組合等に対する支援事業の募集

本会では、平成28年度の組合等に対する支援事業の実施希望組合を募集しています。

この事業は、組合等が抱える諸課題や人材育成等のため、専門家等による助言を行い、課題解決に向けて本会の主催により研修会等を実施するもので、一貫したテーマの下での取り組みにおいては、各種勉強会等の回数に制限はありません。

費用の一部をご負担いただくこととなりますが、より効果の高い研修となるよう研修内容等について本会の指導員と共に構築していただきます。

青年部や女性部などでの利用も可能ですので、この機会に是非ともご検討いただきますようお願い致します。

おくやみ 小西輝幸 中央会副会長が逝去

本会副会長の小西輝幸氏が2月10日午前9時24分、ご逝去されました。享年64歳。

小西氏は、平成11年5月より常任理事、平成22年からは副会長を務められました。また、県青年中央会の会長や県建設関連業団体部会の副会長などを歴任され、県下中小企業組合及び砕石業界を中心に建設関連業界の振興・発展に尽力されました。

葬儀は、2月13日に、喪主小西一輝氏によりのうひグリーンホール前平(美濃加茂市)で執り行われました。

なお、小西氏には、従六位旭日双光章が授与されております。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。



平成28年経済センサス-活動調査を実施します!!



平成28年6月1日を期日として実施する、経済センサス-活動調査は、我が国における産業構造を包括的に明らかにすることを目的とする政府の重要な調査で、「統計法」に基づいた回答義務のある基幹統計調査です。

調査票は、平成28年5月末日までにお届けします。ぜひ、インターネットでご回答ください。

総務省・経済産業省・岐阜県・市町村

中央会日誌

<1月21日~31日>

29日 (一社)岐阜県工業会 新春講演会・交流会 (岐阜都ホテル)

<2月1日~29日>

4日 中央会正副会長会議 (すぎ山)

16日 岐阜中金会通常総会・懇親会 (ホテルパーク)

17日 岐阜地方最低賃金審議会第2回運営小委員会 (岐阜合同庁舎)

22日 (独法)高齢・障害・求職者雇用支援機構 運営協議会 (ワークプラザ岐阜)

25日 都道府県中央会事務局代表者会議 (全国中央会)

岐阜新卒者就職応援本部会議・岐阜県高等学校就職問題検討会議 (岐阜合同庁舎)

26日 岐阜県成長・雇用戦略の意見交換会 (県庁)

<3月1日~20日>

3・4日 岐阜県地域活性化ファンド審査委員会 (ふれあい福寿会館)

7日 岐阜地方労働審議会 (ワークプラザ岐阜)

10日 岐阜県職業能力開発協会 異業種交流会 (グランヴェール岐山)

18日 岐阜地方最低賃金審議会 (岐阜合同庁舎)



国の平成27年度補正 ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金の公募について

本事業は、中小企業・小規模事業者が取り組む、革新的なサービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善のための設備投資等を支援するものです。

事業の目的

国内外のニーズに対応したサービスやものづくりの新事業を創出するため、認定支援機関と連携して、革新的なサービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行う中小企業・小規模事業者の設備投資等を支援します。

対象要件

認定支援機関の全面バックアップを得た事業を行う中小企業・小規模事業者であり、以下のいずれかに取り組むものであること。

1. 革新的サービス・ものづくり開発支援

「中小サービス事業者の生産性向上のためのガイドライン」で示された方法で行う革新的なサービスの創出・サービス提供プロセスの改善であり、3～5年計画で、「付加価値額」年率3%及び「経常利益」年率1%の向上を達成できる計画であること。または「中小ものづくり高度化法」に基づく特定ものづくり基盤技術を活用した革新的な試作品開発・生産プロセスの改善を行い、生産性を向上させる計画であること。

2. サービス・ものづくり高度生産性向上支援

上記1.の革新的なサービス開発・試作品開発・プロセス改善であって、IoT等を用いた設備投資を行い生産性を向上させ、「投資利益率」5%を達成する計画であること。

募集期間

平成28年2月5日(金)～平成28年4月13日(水)〔当日消印有効〕

今回の公募は6月中を目処に採択を行う予定です。**原則、公募は1回限りです。**

※提出は**郵送**又は「ミラサポ(支援ポータルサイト)」での電子申請となります。

公募要領等

「公募要領」、「申請書様式」、「認定支援機関確認書」は、下記ホームページに掲載しております。(※「岐阜県内認定支援機関」は下記のサイトからご覧いただけます。)

岐阜県中小企業団体中央会ホームページ

<http://www.chuokai-gifu.or.jp/chuokai/mono27/H280205mono-boshu.html>

なお、申請書は公募要領の注意事項をご確認のうえ、作成してください。また、申請書は申請する類型により2種類に分かれていますので、ご注意ください。

○その他、ご質問等については、岐阜県地域事務局までお尋ねください。

【申請書提出先・問い合わせ先】

岐阜県地域事務局(岐阜県中小企業団体中央会)

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番53号 ふれあい福寿会館9階

☎ **058-277-1101**